

聖書に記されている「供え物」についての表記の違い

口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳聖書による表記の違いを口語訳聖書から検証してみました。

供え物の種類(口語訳)

燔祭(はんさい)	日々	燔:やく、あぶる、祭りに供える焼いた肉
素祭(そさい)	日々	
酬恩祭(しゅうおんさい)	感謝するとき	
罪祭(ざいさい)	罪を犯したとき	
愆祭(けんさい)	間違いを犯してあがない(つぐない)が必要なとき	愆:あやまる、あやまつ、あやまち、つみ、とが

▶創世記 8 : 20

ノアは主に祭壇を築いて、すべての清い獣と、すべての清い鳥とのうちから取って、燔祭を祭壇の上にささげた。

→新共同訳：ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげた。

→聖書協会共同訳：ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥の中から選んで、焼き尽くすいけにえとして祭壇の上で献げた。

▶出エジプト記 29 : 41

他の一頭の小羊は夕にこれをささげ、朝の素祭および灌祭(→神の賛美、神への感謝、祈願、贖罪の目的でぶどう酒または水を祭壇に捧げる)と同じものをこれに添えてささげ、香ばしいかおりのために主にささげる火祭となさなければならない。

→新共同訳：また、朝と同じく夕暮れにも、雄羊に穀物の献げ物とぶどう酒の献げ物を加え、燃やして主にささげる有めの香りとする。

→聖書協会共同訳：もう一匹の小羊は、夕方、朝の供え物と同様に、穀物の供え物と注ぎの供え物を添えて献げる。それは有めの香り、主への火による献げ物である。

▶出エジプト記 20 : 24

あなたはわたしのために土の祭壇を築き、その上にあなたの燔祭、酬恩祭、羊、牛をささげなければならない。わたしの名を覚えさせるすべての所で、わたしはあなたに臨んで、あなたを祝福するであろう。

→新共同訳：あなたは、わたしのために土の祭壇を造り、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物、羊、牛をその上にささげなさい。わたしの名の唱えられるすべての場所において、わたしはあなたに臨み、あなたを祝福する。

→聖書協会共同訳：私のために土の祭壇を造り、その上で焼き尽くすいけにえと会食のいけにえとして羊と牛を屠りなさい。私は、私の名を思い出させるすべての場所においてあなたに臨み、あなたを祝福しよう。

▶出エジプト記 29 : 14

ただし、その雄牛の肉と皮と汚物とは、宿営の外で火で焼き捨てなければならない。これは罪祭である。

→新共同訳：雄牛の肉と皮と胃の中身は宿営の外で焼き捨てる。これが贖罪の献げ物である。

→聖書協会共同訳：ただし、雄牛の肉と皮と汚物は宿営の外で火で焼かななければならない。これは清めのいけにえである。

▶レビ記 5 : 15

「もし人が不正をなし、あやまって主の聖なる物について罪を犯したときは、その償いとして、あなたの値積りにしたがい、聖所のシケルで、銀数シケルに当る雄羊の全きものを、群れのうちから取り、それを主に携えてきて、愆祭となさなければならない。

→主にささげるべき奉納物のどれかを過ってささげず、主を欺いて罪を犯した場合、その償いとして、聖所で定められた支払額に相当する無傷の雄羊を群れから取って、主にささげ、賠償の献げ物とする。
 →人が背信の罪を犯した場合、すなわち、主の聖なるものに対して過って違反したなら、主への償いのいけにえとして、羊の群れから査定額に見合う、聖所のシェケルで二シェケルの銀に相当する欠陥のない雄羊を引いて行かなければならない。

④上記の聖句は一例として記したものであり、すべての聖句ではありません。

【参考】 日ごとの供え物

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 (日ごとの供え物)4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 日ごとの供え物]
K ダニエル書	8:11 その上、天の万軍の長にまで力を伸ばし、日ごとの供え物を廃し、その聖所を倒した。	
K ダニエル書	8:13 わたしは一人の聖なる者が語るのを聞いた。またもう一人の聖なる者がその語っている者に言った。「この幻、すなわち、日ごとの供え物が廃され、罪が荒廃をもたらし、聖所と万軍とが踏みにじられるというこの幻の出来事は、いつまで続くのか。」	
K ダニエル書	11:31 彼は軍隊を派遣して、砦すなわち聖所を汚し、日ごとの供え物を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすものを立てる。	
K ダニエル書	12:11 日ごとの供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。	

【参考】 年ごとの供え物

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 (年ごとの)4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 年ごとの]
K サムエル記上	1:21 さて、夫エルカナが家族と共に年ごとのいけにえと自分の満願の献げ物を主にささげるために上って行こうとしたとき、	
K サムエル記上	2:19 母は彼のために小さな上着を縫い、毎年、夫と一緒に年ごとのいけにえをささげに上って来るとき、それを届けた。	
K サムエル記上	20:6 そのとき、お父上がわたしの不在に気づかれたなら、『ダビデは、自分の町ベツレヘムへ急いで帰ることを許してください、一族全体のために年ごとのいけにえをささげなければなりません、と頼み込んでいました』と答えてください。	
K 列王記下	17:4 しかし、アッシリアの王は、ホシエアが謀反を企てて、エジプトの王ソに使節を派遣し、アッシリアの王に年ごとの貢ぎ物を納めなくなったのを知るに至り、彼を捕らえて牢につないだ。	

【参考】 贖罪日(レビ記 16 章)⇒大贖罪日の儀式

大祭司はくじを引き、二匹の雄山羊の一匹を主のものとして決め、贖罪の献げ物として、幕屋の祭壇の上で屠る。その血を大祭司は、至聖所に持ち込み、贖いの座の上と前方に振りまく (=至聖所のための儀式)。他の一匹はアザゼル(「強い、ごつごつした」を意味するアズ+「強大」を意味するエル)のものとして決め、罪の身代わりとして、この雄山羊の上に大祭司が手を置き、イスラエルの民のすべての罪責と背きと罪とを告白する。そして、これらのすべてを雄山羊の頭に移し、荒れ野の奥に放たれる(係りの者の手で、崖から突き落とした→贖罪の山羊 : scapegoat = scape/escape[逃げる] + goat[山羊])。

→しかし、第二の幕屋(→至聖所)には年に一度(→大贖罪日)、大祭司だけが入りますが、自分自身のためと民の過失のために献げる血を、必ず携えて行きます(ヘブライ人への手紙 9 : 7)。

→大祭司イエス・キリストが私たちのために献げられたことによって、すべての罪が赦され、私たちは完全に罪からの自由、罪の結果としての死からの自由、神のために生きるための自由を与えられました。